

讃美歌21 11

- 1 感謝にみちて み神をたたえん。
すべてささげ みわざをうたわん。
母の胎に ありし日より
あがないたもう 神の力。
- 2 わがいのちの すべての日々を
恵み祝し 平和をあたえ、
いかに深き 悩みすらも
あわれみもて いやしたまわん。
- 3 栄光と賛美 ささげてうたわん。
父なる神 み子と聖霊に、
昔いまし 今もいまし
永遠にいます ひとりの主に

EG 321

T/M Martin Rinckard

- 1 Nun danket alle Gott / Mit Herzen, Mund und Händen,
Der grosse Dinge tut / Ans uns und allen Enden;
Der uns an Leib und Seel / Von früher Kindheit an
Unzählig viel zu gut / Bis hierher hat getan.
- 2 Der ewig reiche Gott / Woll uns in unserm Leben
Ein Immer fröhlich Herz / Und edlen Frieden geben,
Und uns in seiner Gnad / Erhalten fort und fort
Und uns aus aller Not / Erlösen hier und dort.
- 3 Lob, Ehr und Preis sei Gott, / Dem Vater und dem Sohne
Und dem, der beiden gleich / Im höchsten Himmelsthronen,
Dem dreimal einen Gott, / Wie er ursprünglich war
Und ist und bleiben wird / Jetzt und immerdar!

ルカによる福音書17章33節「自分の命を救おうと努めるものはそれを失い、それを失う者は、命を保ちます」(新改訳版)

新型コロナウイルスの蔓延する最中に行われたアメリカの大統領選挙(11月3日)の結果を、皆さんも固唾をのんで見守っているでしょう。なかなか選挙結果が確定せず、米国内が内乱のような状況になるなどという危惧も、まだ消えていません。

私たちは、コロナ危機が、人類にどのような意味と結果をもたらすことになるのか、そのことを見通すことができないでいます。大国アメリカにおいて生じた混乱や対立が、アジアや世界の行方に深刻な影響を与えることへの懸念も強いと思います。

こうした時代に、私たちは何ができるのか、何をすべきか、何のために、どのように生きていくのか、日々問い直さざるを得ません。先が見通せないなかで、自分の力でどうしようもない運命を背負う勇気を失えば、簡単に自らの精神を病んでしまうリスクは大きく、他人事ではありません。

世界では、この感染症が新興国で拡大する一方、北米と欧州で、経済活動の再開に伴う第二波の感染の到来が明らかです。同時に、安全を確保しながら、停止していた人の移動を回復させ、国境を越えた連携・協力の再開を真剣に模索する段階に入ったと思います。

アジアの場合、インド、フィリピン及びインドネシアなどで感染拡大は依然深刻ですが、中国や東南アジア諸国の多くでは抑制され、域内のサプライチェーンが再起動し、経済活動に明るさが見えています。ただ、欧米市場が縮小したため、アジア域内が同時に勢いをとりもどすことは困難で、生産や貿易の回復は、国や地域によって大きな格差が生じています。

本日読んでいるルカによる福音書の第17章後半では、自己中心な生き方に陥り、欲望の追求と享楽にふける人々を、神様が何度も滅ぼそうとしたとことが記されています。特に、28節から32節では、旧約聖書・創世記第19章に書かれたアブラハムの甥であるロトと二人の娘が、神様の怒りにふれたソドムの街から脱出する話が出てきます。天使から、後ろを振り向かないよう命じられていたのに、崩壊するソドムの街を見てしまったロトの妻は塩の柱に変えられてしまったとされます。中近東には、その遺跡とされる場所が残され、欧州では、デューラーやコローをはじめ多くの画家が絵画に描いてきました。

これに続く第33節を読むと、「自分の命を救おうと努めるものは、それを失い、それを失う者は、命を保ちます」というイエス様の言葉が現れるのです。これは、現代人にはミステリアスで、サイエンスでは理解できない言葉です。

もし、自分の命が他の人の犠牲になるのであれば、私の命は、どうして維持されるのでしょうか。自分の命を救うことは、どうして、私の命を失う結果をまねくのでしょうか。本当に聖書はわかりにくいのです。

この逆説を理解することは、現代人には簡単ではありません。しかし、人生においては、私たちの努力が全て失敗に終わった時に、予想もしないことがしばしば起きることがあるのを知ってください。また、聖書で言われている「私の命」は、しばしば、「私の魂」を意味していることを理解してください。

経済危機は、一人ひとりを自己防衛に走らせます。横のつながりを大事にせず、ほかの人の知られざる苦難を知ろうともせず、自分の利益しか考えなくなります。気を付けてほしいのは、経済危機に乗り、詐欺的取引で利益を得ようとする犯罪が増えていることです。あなた自身も、そういう誘惑に招かれるからです。

しかし、経済危機を脱するために、私たち自身が変わらねばなりません。自分だけ助かろうという、人間的な思いを「逆転」させなければなりません。自分が情熱を持ってできる勉強をし、没頭できる仕事を見出し、愛して尊敬できる人を見失ってはなりません。そういう情熱を持つときには、あなたは、もはや自分のために何も考えなくなります。そういう世界で、あなたという人間は、新たに創造されているのだと思います。

自分のことばかり考えて生きているときには、神様からの「召命」をいただくことができません。自分を忘れて、自分を犠牲にしても、ほかの人に捧げられることが、神様の恵みだからです。

コロナ危機の最中だから、自分は何も集中できないというなら災いです。むしろ、コロナ危機だからこそ、今という瞬間を自分が没頭できることに捧げなければなりません。今という瞬間を、自己を優先する考え方から解放され、自分を犠牲にしても取り組めることを見出さねばなりません。それは、コロナ危機後の世界に貢献するために必要です。

こうして私たちは、「自分の命(魂)を失う」ことで、「自分の命(魂)を生かす」生き方を見つけることができます。聖書的には、隣人に仕えることで、あなたは神様から救われていると感ずることができるのです。神様と出会うのは、この世においてなのです。

今日の聖書の箇所から、あなたが何かを感じることができるよう祈っております。